

月例研修会（平群の里）レポ ～平群千光寺・役行者と修験の道へ～

田中 善英

12月5日（火曜日）、今年最後の月例研修会です。4日17時の奈良気象台の天気予報の降水確率は午前中20%、午後50%でしたが、参加者の強運を信じて開催されました。

9時30分頃から近鉄生駒線東山駅に参加者



18名が集合し、10時7分発の平群コミュニティバスとタクシーに分乗して出発しました。



10時18分に鳴川でバスを降りてから、徒歩で千光寺へ行き、10時30分、千光寺の山門前で先行しているタクシー組と合流しました。

千光寺は修験道の粗である役行者が修行し、660年に天武天皇が伽藍を建立したと言われています。その後、役行者は大峰山の山上ヶ岳に行場を開いたので、千光寺は「元山上」と呼ばれています。その名の通り近くに行場もあり、修行の場に相応しい雰囲気のあるお寺でした。

お寺の雰囲気と紅葉を満喫し、11時10分に出発して清滝石仏群に向かいます。今回のコースは千光寺の標高が一番高く、後は下りだけなので、楽ちんです。5分ほど歩いて到着。ここも行場の一つのこと。今は水が落ちていない滝があり、滝の崖面に線刻地蔵がうっすらと見える。また、伝染病などを防ぐ願いを込めて架けられた勧請綱の跡も見える。役行者が開いた修行の場を身近に感じた時間でした。



11時25分に出発。緩やかな山道を下っていく。途中、花や景色を楽しみ、おしゃべりしながら楽しく歩き、途中で珍しい木を見つけた。

葉っぱは杉とヒノキのように見え、2本の木の根元がくっついていて、根も絡まっている。自然の不思議だと言いながら、遠くに目をやると平群の町並みが見える。もうすぐお昼ご飯。

12時、生駒山口神社の下に到着。もう登りはないはずなのに目の前に70数段の階段がある。やっと登り切った。雨にも降られず、思い思いの場所に陣取って楽しい昼食タイムとなった。



昼食の後、住宅地の中を歩いて、竜田川沿いの道に出ると、すぐ行基が開いた金勝寺。13時に到着し、境内を見て回る。美しい紅葉の中、本堂の横の磨崖仏群を見る。上の方は鎌倉時代後期に彫られ、右下の地蔵立像は戦国末期に平群を支配した嶋左近の妻、「ちゃちゃ」の逆修供養仏の可能性のあるらしいとのこと。

13時30分に出発。途中、竜田川に架けられている勧請綱を見る。途中で切れているが、大晦日には架け替えられるとのこと。

13時50分に紀氏神社に到着した。神社に入ると、本殿の横の作業場で宮司さんがしめ縄を作っておられた。見学させてもらい、いろいろとお話を聞くことが出来た。



この神社は「平群坐紀氏神社」といい、平群に鎮座する紀氏神の社という意味で、元々は紀氏の氏神を祀る神社で皇室との縁も深いとのこと。本殿の屋根に珍しい二重の菊のご紋がある。

吉備内親王墓を経て14時30分に長屋王墓に到着。あいにくの天気でしたが、平群の歴史と紅葉を十分に楽しむことができました。みなさん、お疲れさまでした。

